



Good News for Japan **とぎのこえ**

新しい日 神からの贈りもの

立石 真崇

先日、あるニュースで、「現代型不眠」というものが若い世代の人々を中心に広がっている、と報じられていました。パソコンやスマートフォンなどの電子機器が普及して便利になった一方で、絶え間なく続く機械の操作や機械が発する光の刺激によって眠りが妨げられてしまい、心身の状態、暮らしや仕事にも支障をきたす人が増えているということでした。睡眠は体の調子や生活サイクルに関わります。活動と睡眠が両方揃うことによって、いわば命のリズムがつくり出されま

す。わたしも、日頃から機械を便利に使っている一人として注意を促されました。しかし今日、わたしたちの命のリズムは、電子機器からだけでなく、様々な価値観・物事・人間関係などによっても脅かされているのではないのでしょうか。例えば、少しでも他の人より優位に立とうと追われる時など、昼夜の別なく心の重荷に痛み、苦しみ、命のリズムは損なわれていきます。

聖書は、神が天地を創造されたと伝えています。それによれば、混沌と闇の中に告げられた「光あれ」との神の言葉によって、昼と夜とが分けられ、「一日」となりました(創世記1章1-5節)。ここで注目したいのは、光が闇に変わることではなく、闇に光がもたらされることをもって時が数えられているということです。神は本来、闇から光に向かう歩みをわたしたちに備えてくださっています。

聖書はまた、神の御子イエス・キリストが十字架の上で死なれた後、三日目に復活された、と証しています。その復活の知らせは、夜明けにもたらされました。そして、復活されたイエスは、「おはよう」と述べて弟子たちに姿を現されました(マタイによる福音書28章9節)。

「主よ、朝ごとに……わたしは……あなたを仰ぎ望みます。」(詩編5編4節) ● 昼、信仰者は自分の歩みを確かにして下さる神を信頼し、一日の務めに向かいます。 「あなたの道を主にまかせよ。信頼せよ、主は計らい……あなたのため裁きを、真昼の光のように輝かせて下さる。」 (詩編73編5、6節) 「昼、主は命じて慈しみをわたしに送り……」 (詩編42編9節) ● 夜、信仰者は、その日の歩みを神の御前に振り返り、慰めと安息を得て、新しい朝に備えます。 「……主はわたしの思いを励まし、わたしの心を夜ごと論じて下さいます。」 わたしの心は喜び、魂は躍ります。からだは安心して憩います。」 (詩編16編7、9節) 「……泣きながら夜を過ごす人にも、喜びの歌と共に朝を迎えさせて下さる。」 (詩編30編6節)



● 朝、信仰者は神を仰ぎ、新しい力を受けます。 「主の慈しみは決して絶えない。主の憐れみは決して尽きない。それは朝ごとに新たになる。」 (哀歌3章22、23節) 「主よ、朝ごとに……わたしは……あなたを仰ぎ望みます。」(詩編5編4節) ● 昼、信仰者は自分の歩みを確かにして下さる神を信頼し、一日の務めに向かいます。 「あなたの道を主にまかせよ。信頼せよ、主は計らい……あなたのため裁きを、真昼の光のように輝かせて下さる。」 (詩編73編5、6節) 小隊(教会にあたる)では、毎週日曜日の聖別会(礼拝)を中心として、いろいろな機会に様々な人々が集っています。そこでは皆が「新しい日」の始まりを神からの贈りものとして受け取り、共に歩んでいます。どうぞ小隊にお出かけください。ご一緒に新しい出発をいたしましょう。 (救世軍士官(伝道者))

謹んで震災のお見舞いを申し上げます。
一日も早い被災者の方々の心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

〈信仰の体験談〉

「あなたはわたしに従え」

— 神主の家系から牧師に

齋藤 友紀雄



プロフィール・(さいとう ゆきお)

1936 年、東京生まれ。日本キリスト教団隠退教師、「東京いのちの電話」事務局長を経て、現在、公益社団法人青少年健康センター会長、日本自殺予防学会理事長。
 東京神学大学を卒業。後に米国ランカスター神学校と市総合病院で神学と臨床心理学を学ぶ。1997 年、自殺予防活動への社会的貢献により国際リッセル賞受賞。
 著書『人生の旅立ち・悲しみを越えて』、『今、ここをを考える』、『自殺危機とそのケア』、『悲しんでいる人へのケア』その他、著書、共著書が多数あるが、最近キリスト者で精神医学者 故平山正実氏との共著『自死遺族支援と自殺予防』(日本キリスト教団出版局)を刊した。

生い立ち

生まれも育ちも杉並は阿佐ヶ谷！ と言えば、かの柴又の有名な口上になりませんが、母が亡くなり、姉も老齢化して特養にお世話になっていて関係で、最近、東京・杉並の阿佐ヶ谷にある生家に戻りました。六人家族の中で阿佐ヶ谷生まれは私一人だけです。各地の電源開発に携わった父が、昭和の初めに内務省に入省後、住み始めたのが阿佐ヶ谷でした。戦中戦後、物心

がついて気付いたのは、当時、向こう三軒両隣に、北原白秋、山口淑子(李香蘭)といった有名な人が住んでいたことでした。

一九四一年六月、父が肺炎のため四十五歳で亡くなりました。父の葬儀の会葬者名簿には白秋の名が残っています。その翌年の四十二年に白秋自身が亡くなり、まだ幼い私も葬儀に参列した記憶があります。

戦後しばらくして阿佐ヶ谷に住むようになった山口淑子の家には、よく遊びに

行きました。それは、幼い四人の子どもを抱えて生活に窮した母を、山口家がお手伝いに雇ってくれたからでした。母のおかげで、私も山口家に自由に出入りできました。大邸宅で、広いホールにはグランド・ピアノが置かれていたのを記憶しています。

一方、我が家の前には、戦後、立教大学総長を務めた松下正寿、斜め向かいには戦前立教大学総長を退いた後、啓明学園長になった木村重治が住んでいました。

彼の名前も、白秋同様、父の葬儀の会葬者名簿に残っています。戦後、木村宅には不思議と外国人客(宣教師と思われる)が訪れており、木村が自由に英語で対応していました。鬼畜米英と叫んでいた戦時中では考えられない光景でした。木村の孫娘、幼なじみであった、

はる子ちゃん立教女学院に入学し、ミッシェル・スクールにあこがれをもった記憶があります。さらに数分歩くと、当時すでに数百名の礼拝出席があった阿佐

ヶ谷教会がありました。そうした近所のキリスト教的な環境のせいで、少年時代ごく自然に教会に入り込み、ここで賀川豊彦の講演会に招かれたのです。

私の心を捉えた講演会

賀川は、戦後たびたびノベル賞候補者に推薦された著名人でした。教会にはそんな偉い人がいるのかと驚き、一九五二年五月三日、十六歳の時に賀川の講演会に出席しました。

賀川の講演はまず、彼が留学していたプリンストン大学で、相対性理論で知られるアインシュタイン教授が大学の礼拝堂で祈っていたエピソードから始まりました。さらにド・ブロイの波動力学、エディントンの膨張する宇宙といった、当時の理論物理学の最先端を行く話は、科学好きの少年を驚かせるには十分でした。



17歳の頃 (1953年)

一年後に信仰告白をして洗礼を受けましたが、そこに至るまでの長い迷いがありました。自分自身の中に人間の弱さ、迷いと苦しみを覚えていたからです。ことに父親のいない家庭で、現実的な貧しさと不安を覚えていました。そうした中で「肉体のとげ※」(コリント人への第二の手紙二章七節口語訳聖書)という信仰に触れた時に、弱さの中にこそ神が近くにありますことを知らされたのです。

※「肉体のとげ」— 大伝道者パウロが、自分自身の身体の弱さを「とげ」と表現し、それを取り除いていただきたいと神に願った時、神は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」と答えた。パウロは、その答えを受け、弱い時にこそ強いと宣言するに至る。

神と人のために生きる

さらに数年後、恩師である、阿佐ヶ谷教会の大村勇牧師から、

「伝道者にならないか。君は神に召されていると思う」と勧められたのです。イエスが、

「あの人はどうなのか」と気になるペトロに対して、



教師ルツ・ヘットカン プから協力の要請がありました。

苦しみことも恵みとして
一九七〇年になって、海外でも始まっていた自殺予防「いのちの電話」を我が国でも、との機運が高まり、中心となったドイツ人の宣

「あなたに何の関係があるか。あなたは、わたしに従いなさい」(ヨハネによる福音書 21 章 22 節)
と戒めたように、他の人ではなく、自分が神に直接招かれたと信じました。しかも自分の人生ではなく、神と人のために生きることが人生の目的であるとする決意をしたのです。
実は、齋藤家は秋田県で代々神官の家系で、父は神社を継ぐことを期待されていました。しかし、父が電気技術者になったので、神主は弟が継いだのです。とにかく神主の孫が牧師になると言い出したので、家族は驚きました。反対はあつたものの、最後には認められて神学校に学び、卒業後十年間、二つの教会に仕えました。

「あなただけでほっとする。声をかける。自殺予防 いのちの電話」
0120-738-556
毎月10日(月) 24時間・無料です(通話料)



アメリカの病院での実習 (1972年)

交換留学生として神学校では牧会心理学を学び、さらに公立病院でカウンセリング実習を受けました。病院では、患者一人ひとりを訪問して話を聴くことに始まり、集中治療室で、自殺未遂をして搬送された救急患者と家族へのケア、あるいは精神科看護師と共に聴く患者の事例研究などは刺激的でした。こうした経験

実はその頃、私は病気の妻を抱えて悩み、また苦勞していました。妻は、かなり重い腎臓疾患と病気のせいで情緒的にも不安定でした。そのため、牧師館に住むこととそのものが無理になっていました。私の人生の中で、この時代は最も苦しく、辛い時代でした。そこで妻は実家で療養することになり、私は新しい仕事に備えて米留学をすることになりました。

はその後の自殺予防活動への布石になりました。そして、牧師の役割は、患者がもっているスピリチュアルな課題(病氣・生きる意味など)を共に探ることだ、と学びました。
妻の病氣と米国での研修を通して改めて確信したことは、「キリストと共に苦しむ」という聖書の信仰でした。
「キリストのために苦しむことも、恵みとして与えられているのです」(フィリピの信徒への手紙 1 章 29 節)
との聖書の言葉を病院のチャペルで読み、涙と共に祈った経験を忘れることができません。

「いのちの電話」へ
帰国後しばらくした一九七四年、すでに始まっていた

た「東京いのちの電話」の事務局長として就任することになりました。その後「いのちの電話」は全国各地に広がり、現在五十カ所に拡大しています。
この組織は、幅広く信条を越えた市民参加の運動ですが、「東京いのちの電話」だけは、初期の頃から救世軍に所属する医師を含む「キリスト者医科連盟」と「カトリック医師会」所属の数十名の医師たちが参画しています。まず、一九七〇年にカトリックの医師であった増田陸郎氏(当時目黒保健所長)が日本自殺予防学会を創設、さらに「いのちの電話」は、医師による「電話医療相談」、精神科医による「医療面接室」を設置しました。ことに自殺傾向のある人への相談・治療を実施するなど、「自殺予防

センター」と言ってもよいほど充実していました。中心となったのが、故稲村博氏と最近亡くなった平山正実氏でした。
その後三十年経って、二〇〇一年になり、日本政府は初めて国家的な自殺対策を立ち上げました。最近、国は「いのちの電話」のこうした先駆的活動を高く評価してくれるようになりました。
実は近年、日本の自殺者数が急速に減少しています。その成果の理由やエビデンス(科学的根拠)については、現在、WHO(世界保健機関)や加盟各国がその解明に注目しています。私の見解は、「いのちの電話」が先駆的に実施した「メディアカル・モデル」(うつ病などの精神疾患の治療)と、「コミュニティ・モデル」(行政と連携した市民レベルの地域支援)であったと思います。「いのちの電話」は、すでに、四十年前にこの自殺対



国際リンゲル賞受賞 (アデレード・1997年)

策のモデルを構築していたと言えましょう。
若い人々のために
私は三年前、「いのちの電話」を去り、現在はひきこもりなど居場所のない人々を支援する活動「茗荷谷クラブ」に参画し、同じ場所で「クリニック絆」という電話相談を開設しました。若い人々の自殺予防を主な目標としています。日本の自殺者数は減少していますが、残念ながら若年層では増加傾向にあるのです。年を重ねてはおりますが、生きづらさを抱えている若者のために、もう少し働きたいと思っています。

クリトリ
ご住所
ご氏名
□ 私の近くの救世軍を紹介してください。
□ キリスト教についてもっと知りたいです。
□ 「ときのかえ」の購読を申し込みます。

死ぬほどつらいときに...
03-5319-1760
クリニック絆

若い人を対象にした「クリニック絆」

この部分を封書か葉書に貼り、裏面下の救世軍にお送りください。

創立者 ウィリアム・ブース 大将 アンドレ・コックス (万国本営 英国ロンドン)

日本司令官 勝地

次郎 (救世軍本営)

東京都千代田区

http://www.salvationarmy.or.jp



世界をみつめて

〈ネパール〉 震災被災者支援

4 月 25 日、ネパールの首都カトマンズから北西 80 km 付近を震源とするマグニチュード 7.8 の地震が発生しました。多くの住宅や建物が倒壊したほか、エベレスト周辺では雪崩が起きました。死者は国内だけで 8,000 人以上に上り、周辺国のインドや中国、バングラデシュでも犠牲者が出ています。

国連が支援の調整役となり、救世軍は、震災後すぐに、カトマンズ及び近郊で飲料水や食料の支援を開始、続けて古都バクタールのダルバル広場の避難所での支援も依頼され、食料品の提供などを開始しました。



また、最大の被害を受けたとされるシンドウパルチョーク郡に入った調査チームは、道路が寸断されているため、約 70 km の道を徒歩で回り、村々を訪ねました。約 9 割の建物が倒壊し、食糧と避難所の支援が急務であることがわかりました。早速 5 月 8 日、米 6,750 kg、豆粉 1,125 kg、食用油 450 l、食塩 225 kg を、9 つの村の 445 世帯に配布しました。山間部のため、ポランティアは、大きな袋を抱えて、階段や 160 m もある橋などを徒歩で運搬し、村の人々はさらに奥地に持ち帰りました。

ニューヨークのタイムズ・スクエアには、救

〈緊急〉
ネパール震災のための献金を募っています。最寄りの救世軍、または救世軍本営へお問い合わせください。



世軍によるネパールのための祈りと献金の要請が掲げられ、人々にネパールへの関心を喚起させました。(5 月 11 日現在。最新の支援報告を、救世軍本営のホームページでご覧いただけます。)

〈全世界〉 歴史上最大規模の請願書 「学校に行けない子どものために」

救世軍は、全世界の児童の教育の機会拡充を求める署名運動に取り組んでいます。この署名は、救世軍万国社会正義委員会が、国連の教育問題特別顧問でイギリス前首相のゴードン・ブラウン氏夫妻が設立した団体「学校を世界に」と協力する中で、要請されました。請願内容は「すべての学校に通えない子どもたちが教育を受ける権利を得られるように」というものです。強制労働や早期結婚、紛争、学校襲撃、搾取、差別などの理由で、全世界で約 5,700 万人の子どもたちが学校に行くことができない状態に置かれています。



集められた署名は、7 月におこなわれる救世軍万国大会において、ゴードン・ブラウン氏に手渡され、今年 9 月に国連でおこなわれる会合に請願書として提出される予定です。この署名には 7 歳以上の人が参加できます。

救世軍創立 150 周年記念 野外コンサート 入場無料

6 月 7 日 (日) 午後 2 時
日比谷公園小音楽堂



救世軍ブース記念病院 〒166-0012 東京都杉並区和田 1-40-5
TEL 03-3381-7236 (代表)
<http://boothhp.salvationarmy.or.jp>

〈診療科目〉内科、消化器内科 (内視鏡)、循環器内科、神経内科、精神科、整形外科、皮膚科、眼科、リハビリテーション科、ホスピス外来、漢方内科、各種健康診断 199 床 (療養病棟 147 床、一般病棟 32 床、緩和ケア病棟 (ホスピス) 20 床)



救世軍清瀬病院 〒204-0023 東京都清瀬市竹丘 1-17-9
TEL 042-491-1411
<http://kiyosehp.salvationarmy.or.jp>

〈診療科目〉内科、循環器科、神経内科、呼吸器内科、皮膚科、リハビリテーション科、緩和ケア内科 142 床 (療養病棟 117 床 [うち介護保険病棟 43 床]、ホスピス緩和ケア病棟 25 床)



両病院とも (公財) 日本医療機能評価機構認定病院です。清瀬病院は病院機能評価付加機能 (緩和ケア機能) 認定も取得。両病院とも、どなたでもご利用いただけます。

ブース記念老人保健施設 グレイス
〒166-0012 東京都杉並区和田 1-40-15
TEL 03-3380-1248

特別養護老人ホーム (ユニットケア型) 救世軍恵みの家
〒166-0012 東京都杉並区和田 1-41-11
TEL 03-3381-7243 (代表)



併設：杉並区地域包括支援センター「ケア 24 和田」、ブース記念ケアマネージメントセンター和田、ブース記念訪問介護ステーション ルツ・ナオミ

● 両病院及び「グレイス」、「救世軍恵みの家」で看護師、介護職を募集中

ユニットケアという、少人数の家族的な雰囲気の中でケアがなされ、食事や入浴、行事など、日常生活がユニット毎におこなわれています。

発行所 **救世軍本営**
電話 東京 (03) 三三七〇八八一
〒101-0051 東京都千代田区 神田神保町二丁目十七番一
編集人 齋藤 恵子
印刷兼 代表者 勝地 次郎
印刷人 齋藤 恵子

(取扱支部)
救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

発行日及び定価
発行日 毎月一日・十五日
定価 一日号 一部五〇円 (〒六〇円) 十五日号 一部六〇円 (〒六〇円) クリスマス特集号 (十二月一日号) 一部一〇〇円 (〒七〇円) 一年分 二七〇円 (送料七五〇円) 振替 〇〇一八〇五四四〇〇

今年、救世軍は創立 150 周年、日本での働きが始まって 120 周年を迎えます。

- 英国・ロンドンでは—7 月 1 ~ 5 日 創立 150 周年記念万国大会 を開催
- 日本・東京では—9 月 20 ~ 22 日 全国青年大会 を開催

救世軍とは
The Salvation Army

イエス・キリストを唯一の救い主と信じる、プロテスタントのキリスト教会です。創立者はイギリスのメソジスト教会の牧師だったウィリアム・ブース。1865 年、ロンドンの貧しい人々、社会から顧みられない人々の物心両面からの救いを目指して、働きを始めました。現在は、世界 126 の国と地域で、助けを必要としている人々のニーズに応えながら、神の愛を伝えています。

日本での働きは、1895 (明治 28) 年に始まり、現在は、44 の小隊 (教会にあたる) と 12 の分隊 (伝道所にあたる)、20 の社会福祉施設、2 つの病院 (ホスピス併設) を通して働きを進めるとともに、街頭生活者支援や災害被災者に対する救援及び復興支援などをおこなっています。

(この欄に通信文を書くと第三種扱いになりません)